

〒102-8282

東京都千代田区紀尾井町 1-3
東京ガーデンテラス紀尾井タワー
バズフィード・ジャパン株式会社
岩永 直子 様

令和3年1月27日
全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会
代表 多田 雅史

<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>

送 付 票

前略

貴殿は、記事によれば、NCNPの松本俊彦医師に心酔しているようなので、厚生労働省等に送付した「抗議書」を貴殿にも送付する。

なお、添付資料は割愛するが、資料9.「BZD依存/常用量依存をめぐる疑義」(松本俊彦の投稿のSNS)のみを添付する。この投稿記事は、松本俊彦医師が、ベンゾジアゼピン医療過誤訴訟において被告医療機関の協力医として裁判所に提出した「被告協力医の意見書」を投稿したものである。ここで、松本は、「ベンゾジアゼピン系薬物(向精神薬)は常用量依存を生じず、常用量依存患者を1人も診たことがなく、副作用も短期間で寛解する」、「ベンゾジアゼピン依存患者は、自分の生きづらさをベンゾジアゼピンのせいにして」とまで主張している。一方、厚生労働省のベンゾジアゼピン系薬物の医薬品添付文書の改訂審議会ではまったく相違する意見を述べている(議事録添付)。このことは、PMDAの調査結果報告書(添付)及び平成29年度医薬品・医療機器等安全性情報(No.342)(添付)にも裏付けられている。ところが、上記の松本俊彦の意見書を採用した裁判所は、被告医療機関に勝訴をもたらしてしまった。

そして、松本俊彦は、これまで、「日本国内で大麻の自由化・非刑罰化」を主張しており、我が国における大麻の普及及びベンゾジアゼピン系薬物の大量処方に貢献している。「大麻の自由化」は、米国における『米大麻業界の「宴」開始か、飛躍の準備整う』の記事のとおり(添付)、投資家は、大麻市場に虎視眈々と投資による利益を狙って、「大麻ファンド」による大型投資が始まろうとしている。松本俊彦が、「依存患者の保護を名目に、日本でも大麻の自由化を提唱」しているが、松本俊彦の真の目的は、「大麻市場による莫大な利益」と「大麻他の薬物依存患者の急増による精神科病院の患者急増の特需」が目的である。当会は、「日本での大麻自由化」に強く反対する。

貴殿も、我が国が世界第2位のベンゾジアゼピン消費国として、数十万人以上とも言われる「ベンゾジアゼピン薬害被害者」に注目して啓発記事としていただきたい。

草々